



主催：京都大学アフリカ地域研究資料センター
共催：日本アフリカ学会関西支部

アフリカ地域研究会

2014/6/19 203

Charles MURIGANDE

2014/7/17

Shoji TAKAMATSU

Masayoshi SHIGETA

2014/10/16 205

Kenta SAKANASHI

204

会場：京都大学程盛財団記念館3階中会議室
参加無料、申込不要

お問い合わせ：京都大学アフリカ地域研究資料センター
<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/>
電話：075-753-7803 E-mail: caas@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp



JUNE

第203回

2014年6月19日(木) 15:00~17:00

1994年のルワンダ大虐殺に対する私たちの答え

チャールズ・ムリガンザ

(駐日ルワンダ共和国大使)

1994年にルワンダで起こったツチの大虐殺から今年で20年になる。1994年4月6日、アツ出身の大統領が乗った飛行機が撃墜され、大統領は死亡した。中央および地方の行政、軍、警察、メディア、市民社会に属していたアツの過激派は、これに乗じてツチを撲滅しようとした。たった100日間のうちにルワンダでは、100万人もの人々が命を失い、何十万人もが孤児や未亡人となり、何百万人もの国外難民あるいは国内の避難民が生まれた。その後、ルワンダはひどく傷つき、荒廃した土地となった。国際的なコミュニティの多くは、ルワンダはもはや独立した国家として存続できないのではないかと、いう疑念を表明した。この小さな国を、ツチの領土とアツの領土に分断するしかない、とさえ言われた。しかしながら、現在のルワンダはサブサハラ・アフリカでもっとも安全かつ急速に発展している国家の1つである。また、国連の平和維持活動に対して世界で6番目に大きな軍事的貢献を行っている。どういった効果あるいは私たちそれぞれが出した答えがそうした劇的な展開を生んだのだろうか?このセミナーではこれについて論じる。

発表言語:英語(通訳あり)

photo by Yukiko KONDO



JULY

第204回

2014年7月17日(木) 16:00~18:00

実践と研究の対話

実践と研究は、何が違うのか。違うからこそ、対話や協力を通じてアフリカの人たちにプラスとなるようなアクションをおこなえないか。高度な専門技術と経験を有せし、現地で具体的な調査や作業を実施し、さまざまな援助プランを実現してきた開発実務者と、現地に暮らし人びとの営みを分析するなどで培った理解を、彼らの課題解決につなげる「実践的地域研究」に踏み出した研究者が、それぞれの立場から自身の活動をふり返り、実践と研究の架橋を展望する。

アフリカ村落部の
給水事業の経験から

高松 章二

(日本テクノ株式会社・代表取締役)



X

問わることへの
喜びとためらい
アフリカ農村が求めるもの

重田 真義

(京都大学 アフリカ地域研究
資料センター・教授)

H25年度京都大学アフリカ研究出版助成
記念講演、H25年度経典産業研究
(若手研究者に贈る出版助成事業)

第205回

アフリカ熱帯農業と
環境保全

カメルーン カカオ農民の生活とシレンマ

坂梨 健太

(同志社大学グローバル・スタディーズ研究科・日本学術振興会特別研究員(PD))

今日の中部熱帯アフリカでは、資源の収奪という開発一辺倒でも、人間を排除した環境保全重視でもなく、住民の「伝統的」な生活を維持させたまま、開発と環境保全の両方を目指す新たな動きがみられる。このような状況のなかで、住民がどのような問題に直面しながら農業をおこなっているのか、カメルーンのカカオ生産地の事例を通して明らかにする。また、わたしたちが中部熱帯アフリカの農業をどのように見てきたのか考えたい。

2014年10月16日(木) 15:00~17:00

OCTOBER

